

図書通信

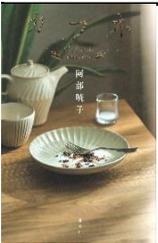
大阪府立桜宮高等学校図書館 2025年7月

1学期末試験も終わり、本格的な夏を迎えました。各学年それぞれ新しいクラスにもだいふ慣れたことと思います。夏休みを前に、図書館には本屋大賞の本を含め、新しい本が沢山入りましたので、是非立ち読みに来て物色し、夏の期間を利用して大いに借りて読んでください。図書館は特別時間割中は3限終了後から2時まで。7月22日の終業式以降も8月1日（金）までの間、平日毎日10時～2時の間開いていますので、（7月29日（火）のみ休館）、気軽に遊びに涼みに来たり、宿題や受験勉強に様々利用してください。



Newton 関西Walker Number Tarzan 歴史人 SCREEN ダ・ヴィンチ レタスクラブ 体育の科学

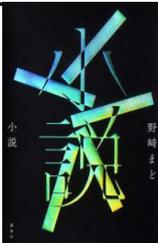
新しく入った本の紹介



あ、とても良い本を読んだと、読了後に静かに深呼吸したくなるような。夫から一方的に離婚を切り出した妻は、その傷が癒える間もなく突然溺死してしまふ。自ら自暴自棄に溺れるようになった妻は、弟の元恋人とつなぐ。タイトル「あ、とても良い本を読んだ」を手伝うことになる。タイトル「あ、とても良い本を読んだ」を手伝うことになる。タイトル「あ、とても良い本を読んだ」を手伝うことになる。



アルプス席の母 早見和真
青春は、アサー女性書店員を主人公とした『店長がバカすぎた』で2020年本屋大賞ノミネートされ、全国の書店員の熱烈な支持を得たが、今作『アルプス席の母』は甲子園を目指す高校球児の『母親』視点で描かれた野球小説である。母親視点しながら女子ひとりで一人息子の軌跡を描き出している。『母親』視点で描かれた野球小説である。母親視点しながら女子ひとりで一人息子の軌跡を描き出している。



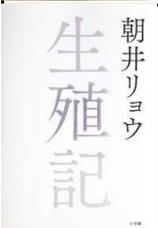
禁断の子 山口未桜
流行後に即座にブレイクとなった『禁断の子』。著者の山口未桜さんは消化器内科医として勤務する現役女性医師であり、審査員が満場一致で選出した『第34回山崎賞』受賞。救急医の真田の元に搬送されてきた一体の悪魔体。身元不明のその悪魔は、真田と血がつながったのか？それとも、明らかな回答を導き出されていく小説。『禁断の子』というタイトルに込められた真実がわかったとき思わず戦慄が走る。元同級生の寄席漫画家・城崎とのパディものとしても秀逸。2025年には続編として『白濁の種』の刊行が予定されている。本屋大賞4位



白薔薇殺人事件 池上彰
ミステリー作家の卵であるアニーは、大叔母の住む村に招かれた。大きな屋敷に住む資産家の大叔母は、16歳のときに古い館から告げられた、いつかおまえは殺されるという予言を信じ続けており、奇妙な老婦人として知られている。アニーが屋敷に到着すると、大叔母は図書室の床に倒れて死んでいた。両手には血がついていて、そばには白薔薇が落ちていた。予言的中したときのために大叔母が約60年をかけて調査した記録を手がかりに、アニーは犯人探しに挑む。犯人だとしてミステリーの大傑作！



恋とかやさしさ 伊藤原新
本屋大賞ノミネート新作家、一橋ミチ子。2022年には『スモールワールド』。2023年には『光のどこにいてね』。そして今年2025年は『恋とかやさしさ』でノミネートされた。『プロポーズされた翌日に、悪人監獄で捕まるとしたらあなたはどうしますか？7年と交際して、この人に結婚を考へようという男性だとして。誰は、どんなに結婚を考へようとしても、必ずどこか事情は崩れ、悔も涙も生じている。『恋』とは年を重ねるごとに『愛』よりも『情』の部分が大きくなっていくだろう。加害者の悪人、肉親、さまざまな人たちが巻き込みながら波紋を巻き起こしていく本作、重いテーマながら、非常に心に刺される一冊。本屋大賞7位



朝井リョウ 生殖記
2022年本屋大賞にノミネートされた『正歌』から3年半、前作も社会的マイノリティ、多様性についての事実を突きつけられる衝撃作であったが、今作『生殖記』はそれを上回る話題作である。タイトルからも想像できる通り、なんと語り手は主人公、尚の生体本。それが人格を持ち、尚と観察・分析しつづける。『生殖記』はそれを上回る話題作である。タイトルからも想像できる通り、なんと語り手は主人公、尚の生体本。それが人格を持ち、尚と観察・分析しつづける。



教室 山田とだ 金子玲介
『死んだ山田と教室』【第65回メフィスト賞】【主催のブランド800K大賞2024】、早くもさまざまな賞を受賞している話題作！夏休みが終わる前、飲酒運転の車に轢かれて死んだ二年E組の人気者、山田。突然の山田の死を突如クラスメイトたちの前に、教室のスピーカーに伝達した山田の魂が声だたしになって響いてくる。男子高校生でバカすぎたらならノリノリでいっしょから一転して、後半シリアスな展開に、生きていく限り、人は成長していくもの。あつと言っただけに青春は自然のように『異性愛関係』だといふ大なる矛盾。『同性愛関係』がコミュニティの中で折り合いをつければいけない現実と、『ヒト』としての社会的な幸福について考えさせられる一冊である。本屋大賞8位



フォース・ウィング 第四騎団の戦艦 Rebecca Yarros
竜の騎手たちが魔法の力で守る国ヴァー。書記官を目指す二十歳のグレイレットは、軍の司令官である母親の命令で、バネズ軍大尉と騎手を志すことに。だがそこは、入学者の大半が過酷な訓練で命を落とす。死と隣り合わせの場所だった！ 彼女が所属する第四騎団（フォース・ウィング）の冷徹で有能な隊長インディアに命を預けられること。グレイレットは命を待ち受ける危険状態での、後援、そして命懸けの戦いの行方は——アメリカが400万回以上を売っており、書籍サイトGoodreadsで130万人が★5.0と評価。この1冊でロマンス要素のあるファンタジー『ロマンタジー』の大ブームを巻き起こした話題のベストセラー（フォース・ウィング）シリーズ開幕。



池上彰が見る 分断アメリカ 池上彰
アメリカには、南北戦争以来の分断の歴史が存在していた。そのさまざまな分断を表面化させたのが、トランプの出現だった。いま、民主主義は危機に直面している。アメリカの選択は、世界をどう変えるのか。インフレ、経済格差、宗教問題、移民問題など、数々の課題が山積し、さらにロシアのウクライナ侵襲やイスラエルのパレスチナ攻撃に対するバイデン政権の対応も不安定であった。加えて、トランプが残した分断は確実に拡大を続けている。分断進むアメリカの現状と、それが日本や世界に及ぼす影響を、幾度も現地に渡って取材を重ねてきた池上彰が鋭く分析する。



言葉の舟 伊藤原新
『活版印刷三日月堂』など人気シリーズを数々手掛ける著者が贈る魅力的なショートストーリーの書き方入門書！活版印刷や和紙、金継ぎ、和菓子などの伝統文化を題材としたおはなしを執筆する一方で、Xで140字の短いおはなしを10年以上発表してきたほしおさん。本書は、そんなほしおさんがこれまで講座等で教えてきた140字小説の構成の組み立て方や書き方のポイントに加え、ほしおさん自身の作品がどのように生まれたか、コンテスト入賞者の作品がどのように優れているのかなどの解説も盛り込んでいます。



国宝 吉田浩夫
1964年元旦、長崎は老舗料亭「花丸」——侠客たちの邸宅と悪徳が飛び交うなかで、この国の宝となる役者は生まれた。男の名は、立花義久。任侠の一門に生まれながらも、この世ならざる英傑は人々を巻き込み、悪徳の人生を生かすために運命を振り回す。舞臺は長崎の大坂。そしてオランダ船の軍艦へ、日本の成長と歩を合わせるように、積みあがき、道を究めようともく歩きた。血脈と誇りの誇り、スキャンダルと栄光、運命の運命を切り、舞臺、映画、テレビと芸術界の転機期を駆け抜け、数々の数珠と絶望を享受しながら、その頂点に登りつめた先、何が見えるのか？ 朝日新聞連載時つづきな反響を呼んだ。芸術復興文部科学大臣賞、中央公論文芸賞をW受賞 上巻 青春篇 下巻 花道篇



なぜ備えていると本が読めなくなるのか 三宅雅典
NSで話題沸騰の『オモコロ』大人気シリーズを書籍化！『読書の常識が変わる……』これは全く新しい本の読み方です！——雨穴氏。『ついに日本におもしろく『走れメロス』を読む人間が現れた！——ダ・ヴィンチ・恐山氏。『生まれて一度も読書をしたことがない素人本を読んだら、一体どうなるんだろう？』そんな素人本疑問がきっかけで生まれた『本を読んだことがない32歳が初めて『走れメロス』を読む日』というオモコロ記事。1人の男が初めて本を読む。ただそれだけの記事が爆発的に拡散され、100万人の目に留まる大ヒット記事に……！『愛作家』大ヒット雨穴氏が短編寄稿！



DREY KOPKOV Diary an 侵略日記 Rebecca Yarros
2022年2月に始まったロシアとウクライナの戦争について書いたノンフィクション。戦況の激化していく同年7月までの日々が、作家の観察眼で生々しく綴られている。ウクライナの状況をよく知らない読者にも理解しやすいよう配慮されていると読みやすい。全体として、作家自身が実際に見聞した具体的な出来事と、その背景説明や思索をあてられた部分が多いためバランスがとれている。非常に優れたトルジョーユになっている——解説 ロシア文学者 沼野恭子



日記の練習 伊藤原新
大人になってから、読書を楽しめなくなった『仕事に追われて、趣味が楽しめない』『疲れていると、スマホを見つめつづけてしまう』……そのような悩みを抱えている人は少なくないのではないかと。『仕事と趣味が両立できない』という苦しみは、いかにして生まれたのか。自らも兼業での執筆活動をおこなってきた著者が、労働と読書の歴史をひもとく、日本の『仕事と読書』のあり方の変遷を辿る。そこから明らかになる、日本の労働の問題とは？ すべてにのめりこみ、読者に向けた渾身の作。



池上彰が見る 分断アメリカ 池上彰
アメリカには、南北戦争以来の分断の歴史が存在していた。そのさまざまな分断を表面化させたのが、トランプの出現だった。いま、民主主義は危機に直面している。アメリカの選択は、世界をどう変えるのか。インフレ、経済格差、宗教問題、移民問題など、数々の課題が山積し、さらにロシアのウクライナ侵襲やイスラエルのパレスチナ攻撃に対するバイデン政権の対応も不安定であった。加えて、トランプが残した分断は確実に拡大を続けている。分断進むアメリカの現状と、それが日本や世界に及ぼす影響を、幾度も現地に渡って取材を重ねてきた池上彰が鋭く分析する。



ないものがあります 吉田浩夫
よく耳にするけれど、一度としてその現物を見たことがない。そういうものがこの世にはあります。たとえば『転ばぬ先の杖』。あるいは『悪徳袋の娘』。こういうものは、どこに行ったら手に入られるのでしょうか？ どのような素朴な疑問とニーズにお応えすべく、吉田浩夫と吉田浩夫による制作ユニット、クラブ・エヴィング商会が、この世のさまざまな『ないもの』たちを、古今東西より取り寄せて、読者に届けます。



ないものがあります 吉田浩夫
よく耳にするけれど、一度としてその現物を見たことがない。そういうものがこの世にはあります。たとえば『転ばぬ先の杖』。あるいは『悪徳袋の娘』。こういうものは、どこに行ったら手に入られるのでしょうか？ どのような素朴な疑問とニーズにお応えすべく、吉田浩夫と吉田浩夫による制作ユニット、クラブ・エヴィング商会が、この世のさまざまな『ないもの』たちを、古今東西より取り寄せて、読者に届けます。



なぜ備えていると本が読めなくなるのか 三宅雅典
NSで話題沸騰の『オモコロ』大人気シリーズを書籍化！『読書の常識が変わる……』これは全く新しい本の読み方です！——雨穴氏。『ついに日本におもしろく『走れメロス』を読む人間が現れた！——ダ・ヴィンチ・恐山氏。『生まれて一度も読書をしたことがない素人本を読んだら、一体どうなるんだろう？』そんな素人本疑問がきっかけで生まれた『本を読んだことがない32歳が初めて『走れメロス』を読む日』というオモコロ記事。1人の男が初めて本を読む。ただそれだけの記事が爆発的に拡散され、100万人の目に留まる大ヒット記事に……！『愛作家』大ヒット雨穴氏が短編寄稿！



日記の練習 伊藤原新
大人になってから、読書を楽しめなくなった『仕事に追われて、趣味が楽しめない』『疲れていると、スマホを見つめつづけてしまう』……そのような悩みを抱えている人は少なくないのではないかと。『仕事と趣味が両立できない』という苦しみは、いかにして生まれたのか。自らも兼業での執筆活動をおこなってきた著者が、労働と読書の歴史をひもとく、日本の『仕事と読書』のあり方の変遷を辿る。そこから明らかになる、日本の労働の問題とは？ すべてにのめりこみ、読者に向けた渾身の作。



言葉の舟 伊藤原新
『活版印刷三日月堂』など人気シリーズを数々手掛ける著者が贈る魅力的なショートストーリーの書き方入門書！活版印刷や和紙、金継ぎ、和菓子などの伝統文化を題材としたおはなしを執筆する一方で、Xで140字の短いおはなしを10年以上発表してきたほしおさん。本書は、そんなほしおさんがこれまで講座等で教えてきた140字小説の構成の組み立て方や書き方のポイントに加え、ほしおさん自身の作品がどのように生まれたか、コンテスト入賞者の作品がどのように優れているのかなどの解説も盛り込んでいます。

